

# 播州松巡りのススメ

姫路本社編集部長 吹田 伸

## 日々小論



かつて結婚式では、謡曲「高砂」が流れるのが定番だった。「高砂や この浦舟に 帆を上げて」。年配の方にはおなじみのフレーズで始まり、夫婦愛や長寿の理想を表している。室町時代にAを大成させた世阿弥の作とも言われている。舞台は名前の通り現在の高砂市。高砂の松の化身「姥」、大阪にある住吉の松の化身「尉」と出会った神主が舟で繰り出す情景を謡う。ゆかりの高砂神社では、根が一つで雌雄の幹が左右に分かれた「相生松」の5代目が名所となっている。

播州の海岸線の多くは工場地帯だが、以前はB砂C松で知られた場所。江戸時代には、高砂市や加古川市などに今もある多くの名松を見て歩く「松巡り」も流行したという。東播磨の海沿いを歩くと、改めてさまざまな由緒のある松が残っていることが分かる。加古川市南部の別府住吉神社の、幹がぐにやりと曲がり腕枕のように見える「手枕の松」。北西の浜宮神社にある菅原道真お手植えの「加古の浜松」。さらに北西には、謡曲「高砂」ゆかりの「尾上の松」などが生える尾上神社もある。

ただ、名松といえども松くい虫の被害は深刻だ。現在7代目の尾上の松も、初代以外は松くい虫によって枯死したという。境内には8代目も養生されており、各神社などもそれぞれの松の保全に力を尽くしている。

若い世代にはなじみが薄いかもしれない。だが今後も守り伝えていくためにも、ぜひ一度訪ねてみてほしい。地域の大切な遺産だと感じられるはずだ。能に謡われた室町時代、松巡りがはやった江戸時代など長い歴史の中で、この地域の名松たちは、多くの人々を魅了し続けてきたのだから。

左の記事を読んで下の問いに答えましょう。  
1 空欄Aに入る語句を、漢字1字で書きましょう。

2 空欄B Cに色を表す漢字を1字ずつ入れて、美しい海岸を表す、四字熟語を完成させましょう。

B	砂	C	松
---	---	---	---

3 傍線部①②の漢字の読み方を、ひらがなで書きましょう。

①	②
---	---

4 謡曲「高砂」は「高砂や、この浦舟に帆を上げて、月もろともに出で潮の、波の淡路の島影や、遠く鳴尾の沖過ぎて、はや住吉（すみのえ）に着きにけり」と続きますが、「波の淡路」の部分は「波の泡(あわ)」と「淡路(あわじ)」の掛詞になっています。もう一つ掛詞になっている部分はどこですか。解答欄に合わせて説明しましょう。

				の部分が				
--	--	--	--	------	--	--	--	--

と 

--	--

 の掛詞になっている。

## NIEワークシートのこたえ（2024年3月27日公開）

### ◆ワークシート「謡曲『高砂』の松(国語)」

2024.3.23付 朝刊 オピニオン 解答

1 能

2 B 白 C 青

3 ① ゆいしょ ② ようじょう

4 遠く鳴尾 の部分が 遠くなる と 鳴尾 の掛詞になって  
いる。